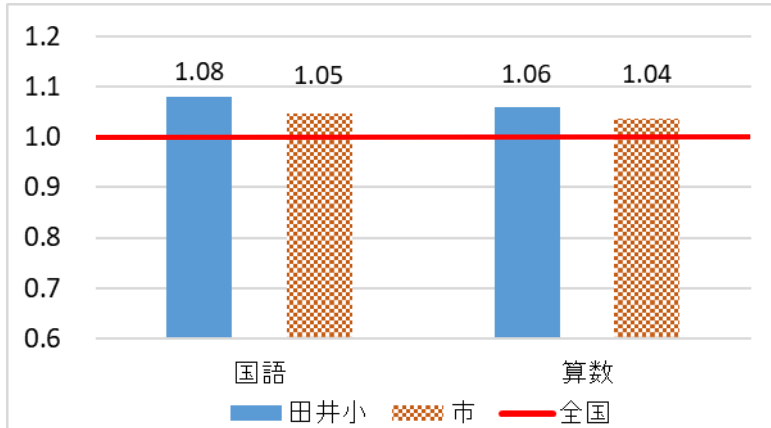


○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

全ての領域で全国平均を上回り、これまでの学力向上の取組の成果が出ている。しかし、記述式の「中心となる語や文を要約する」力を見る問題に関しては、正答率が低かった。説明的文章における要旨を捉える学習を中心に、日常的に短くわかりやすくまとめる指導を行う。「書くこと」においても、作文指導で文字数を限定するなど条件を設定したり、意見と理由を分けて書いたりする練習を続ける。

【算数】

全国平均を上回る結果となり、領域別に見てもバランスよく力が定着しているが、「複数のデータを比較し、割合を求める」力を問う記述式問題に課題が見られた。日々の授業で繰り返し行っていた、図と式と言葉を使って解決方法を説明する力は定着したため、今後はデータの特徴や傾向を見い出すことや複数のデータを活用して記述することができるよう指導していく必要がある。

【質問紙調査】

「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合は「どちらかと言えばそう思う」という肯定的な回答を含めても、全国平均よりやや低い結果であった。「将来の夢や目標をもっている」「やると決めたことは、やり遂げるようにしている」という項目では、肯定的回答が全国平均よりも高く、自分の目標に向かって粘り強くがんばろうとしていることが伺える。

○学力向上の取組

【中学校区】

中学校区で全国学力・学習状況調査の結果を共有し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりをめざしている。また、学力向上の土台としての「考える力」の育成や、地域とともに児童・生徒が認められる場面を多く作り、自己肯定感の向上に努めている。

【学校】

基礎基本の定着を図るために、家庭学習の指導に力を入れている。週1回の放課後学習では補習的な学習支援を、週2回の「学力UPタイム」では発展的な問題への取り組みを行っている。また今年度は、漢字検定や計算検定を行い、児童自らが目標を設定し学びに向かう力の育成をめざしている。